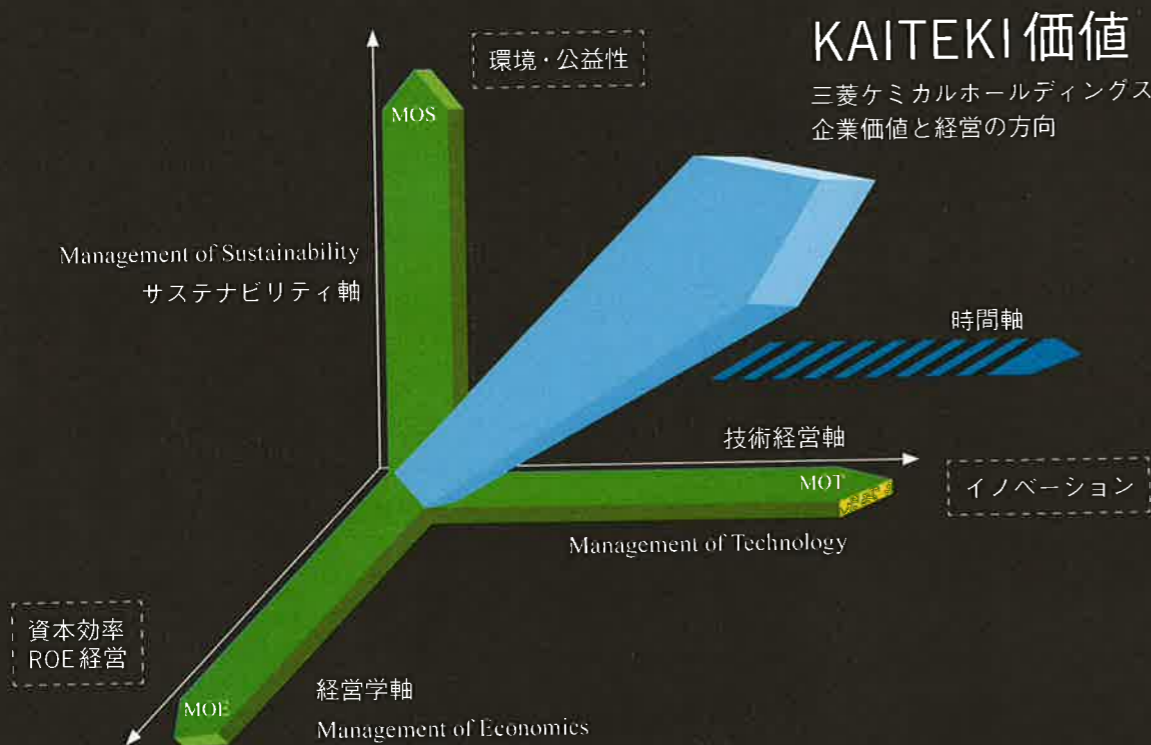


未来へ広がる KAITEKI 価値

株式会社 三菱ケミカルホールディングス

KAITEKI 経営の推進

KAITEKI 価値を MCHC の企業価値と考えた経営を推進しています。



KAITEKIに必要な三つの機軸

「東京・大手町」。皇居に面した都心の一等地に株式会社三菱ケミカルホールディングス(以下、「MCHC」)の本社ビルはある。三菱化学、田辺三菱製薬、三菱樹脂、三菱レイヨンの四社をグループとし、世の中に送り出している製品・原料・サービスは数知れない。私たちの生活インフラとしてごく当たり前に浸透している製品も多数ある。

「Good Chemistry for Tomorrow」人、社会、そして地球環境のより良い関係を創るために。これは同社のグループ理念である。MCHCグループは一口に化学企業といっても、その事業領域は幅広い。電子関連製品や電池材料といった機能商品、医薬品や診断製品・臨床検査といったヘルスケア、合成樹脂や炭素製品といった素材など製品も多岐にわたっている。そこで、時を越え世代を超え、人と社会と地球が心地よい状態が続いていることをKAITEKIと定め、グループ理念のもと、全社員が共通してめざすべき目標として「KAITEKI実現」を掲げている。

では、KAITEKIとはどのような状態なのだろうか。そして企業としてどのように様々な社会課題に取り組むべきなのか。

MCHC経営戦略室KAITEKIグループマネージャー 華房実保さんは、KAITEKIが生まれた背景をこう説明する。

「現在、環境問題・資源の枯渇・食糧問題など地球規模での課題解決が求められているなかで、社会課題を解決しながら、企業としても持続的に発展していくためには新しい経営の軸が必要だったので。私たちの会社ではこれをMOS (Management of Sustainability)と呼んでいるのです」

P34の図をご覧ください。ここにMCHCグループの企業活動に必要な不可欠な三つの軸が描かれている。

①MOE (経営学軸) …企業である限りは利益率など資本効率や株主価値を追求し、主に財務諸表等に表現される数値として表している軸。

②MOT (技術経営軸) …技術に立脚する企業の命綱ともいえるイノベーションの基軸を示し

ている。技術の追求の成果を着実に企業価値の創出につなげることを目指す軸。

③MOS (サステナビリティ軸) …人、社会、地球の持続可能性の向上に企業活動を通していかに貢献しているかを表した軸。

MCHCグループは、これら三軸にさらに時間軸を加えることにより、企業価値と経営の方向を示そうとしている。

KAITEKI 価値を最大に

「MOE (経営学軸)、MOT (技術経営軸)、MOS (サステナビリティ軸)、三つの軸によって表されるベクトルをKAITEKI価値と呼び、これら三つの軸のバランスを取りながら、KAITEKI価値の最大化をめざす経営を行うことが大切であると考えています」

このKAITEKI経営を推進するためにサステナビリティ軸の指標(MOS指標)を2015年度までの経営目標として定めている。具体的には、「生産段階の環境負荷を2005年度比で30%削減」、「疾病治療への貢献度指数を50%向上」、「快適な生活に寄与するコンフォート商品の売り上げを4000億円増加」など数十項目にわたる目標を設定。毎年、その達成度の進捗を公表している。

そして、新たな取り組みのひとつが、「新炭素社会」構想だ。単に二酸化炭素(CO₂)を削減する「低炭素社会」とは異なり、地球上に存在するあらゆるもののバランスを考えて活動を行なっていくというものである。考えてみれば、人間の身体にも含まれている炭素は、社会の持続的発展においても必要不可欠な物質である。CO₂を有効に活用することができれば、地球環境と共存しつつ、世の中に貢献できる製品を生み出すことができるのではないかと。

「KAITEKI実現」に向けたMCHCグループの挑戦は続く。

株式会社三菱ケミカル
ホールディングス

創立
2005年10月3日

本社
東京都千代田区丸の内
1-1-1パレスビル

従業員
53,979名

<http://www.mitsubishi-chem-hd.co.jp>